



▲表彰を受けて喜ぶ組合の皆さん。(1月31日、米子市で開催された農業関係のシンポジウム後)

シバザクラの里がトリプル受賞 猿隠高原の永田集落 (広瀬町東比田)

集落を守るための取り組み
猿隠山の麓に広がる猿隠高原。山間部特有の高低差のある水田が広がります。清流が引き込まれた田植え直前の水面に反射する紅白のじゅうたん。その美しい景観を求めて連休前後、多くの人が永田地区を訪れます。
水田のあぜ(法面)にシバザクラを植栽する事業は、平成24年から同地区で始まりました。目的は農作業の軽減。年4回程度のあぜの草刈り作業を不要にするためです。

「平野部と違い農地を維持しなければ、さらに離農が進む。あぜの草刈りは今なお手作業で、急斜面という危険が伴い大きな負担になっていった」と話すのは、永田集落営農振興組合(田邊順通会長)の事務局長仙石晃さん。「農業がなくなると集落が廃れます。また、ここに住む必要がなくなりません。農地を守るために事業をする必要があった」と語気を強めます。

2年間みっちり話し合い

「危機感はあるものの初めはなかなか進まなかった」と振り返る仙石さん。「最初の2年は集落内で徹底的に話し合いました」。

一回目の視察では、現地を目の当たりにして「これはできない」と誰もが思ったと明かします。しかし、花が咲き乱れる時期に行った2回目の視察では「その景観に皆がやる気になった」と言います。平成26年には1・3畝で植栽がスタート。今では6・5畝にまで範囲が広がりました。

一方、「集落内で共通の話題ができ、住民同士のつなが



▲時期になると辺り一面に甘い香りが漂います。5月3日にはシバザクラ祭りを開催します。

りが強くなった」と、別の効果も仙石さんは語ります。高齢者でもできる草取りや小学生の体験作業など、「花」によつて住民のモチベーションが高まったと言います。
全23世帯の永田地区。咲き始める毎年4月下旬に、住民のみが参加する贅沢なシバザクラの花見会が行われます。一年かけて育てた花を貸し切った宴です。さらに、今年は一層盛り上がりそうです。「法面管理と農村環境づくり」の取り組みが、今年度、3つの団体から表彰されました。
▼第26回しまね景観賞・優秀賞(まち・みどり・活動部門)
▼中国四国農政局長表彰・優秀賞(多面的機能支払)
▼JASしまね・地域貢献・地域活性化団体活動表彰

編集後記

安来市の人口と世帯数 H31.1.31現在

人口合計 / 38,902人
(男:18,647人 女:20,255人)
世帯数 / 14,345世帯

▼老人クラブの取材で訪れたあるサークル。「写真は私じゃなくてあの人がいいよ」と言いつつも皆さんで並んでくださり、さらにカメラを向けると良い表情を見せてくださいました。普段から楽しく活動していることが想像できます。元気な高齢者が多いのは、こうした活動のおかげなのでしょう(旬)
▼平成30年島根県広報コンクールで12月号が入選、11月号の組み写真が特選になりました。広報紙では市民の皆さんや行政の取り組み、活動を伝えています。今回の入賞は、その取り組みが評価を受けたような気がしてなりません。これからもまちの元気な姿を広報紙を通じてお伝えします(9)

- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
- 自治会宛の発送等につきましては、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用